

ルカの福音書 41 回

病と死に打ち勝つイエス

ルカ 8 : 40～56

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスは、第 2 回ガリラヤ伝道を行われた。
- ②イエスは、たとえを用いて教えられた（ルカ独特）。
- ③ルカは、イエスの権威を証明する出来事を記した（4 : 31～6 : 16）。
- ④再び、イエスの権威を証明する出来事を紹介する（8 : 22～56）。

(3) ルカ 8 : 22～56 の内容（イエスの権威の証明）

- ①嵐を静めるイエス（22～25 節）
- ②悪霊を追い出すイエス（26～39 節）
- ③病と死に打ち勝つイエス（40～56 節）

2. アウトライン

- (1) ヤイロの懇願（40～42 節 a）
- (2) 長血の女の癒し（42b～48 節）
- (3) ヤイロの娘の蘇生（49～56 節）

3. 結論

- (1) 複合的奇跡の意味
- (2) 信仰の力
- (3) イエスの知恵

死と病に打ち勝つイエスの権威について学ぶ。

I. ヤイロの懇願（40～42 節 a）

1. 40 節

Luk 8:40 さて、イエスが帰って来られると、群衆は喜んで迎えた。みなイエスを待ちわびていたのである。

- (1) イエスは、ガリラヤ湖の南東部から北西部に帰って来られた。
 - ①異邦人の地からユダヤ人の地への帰還である。
 - ②群衆は喜んでイエスを迎えた。イエスを待ちわびていた。
 - ③複合的奇跡は、ユダヤ人の地で起る（カペナウム近辺であろう）。

2. 41～42 節 a

Luk 8:41 すると見よ、ヤイロという人がやって来た。この人は会堂司であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来ていただきたいと懇願した。

Luk 8:42a 彼には十二歳ぐらいの一人娘がいて、死にかけていたのであった。

(1) ヤイロは会堂司であった。

①ヤイロとは、「主は目を覚まさせる」という意味である。

②ヤイロは、ユダヤ人共同体の長老の一人である。

③影響力のあるリーダーの何人かが、イエスを信じていたことを示している。

④ルカ 7:3

Luk 7:3 百人隊長はイエスのことを聞き、みもとにユダヤ人の長老たちを送って、自分のしもべを助けに来てくださいとお願いした。

⑤ヤイロは、百人隊長の使者となった長老たちに含まれていた可能性がある。

(2) ヤイロは、自分の家に来ていただきたいとイエスに懇願した。

①12 歳ぐらいの娘が死にかけていた。

*娘は、結婚可能な年齢になろうとしていた。

*現代のユダヤ人少女は、12 歳でバット・ミツヴァーを祝う。

②ルカだけが、一人娘と書いている。

③イエスのあわれみの心が、その事実と共鳴した。

④ヨハ 3:16

Joh 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

II. 長血の女の癒し (42b～48 節)

1. 42b～43 節

Luk 8:42b それでイエスが出かけられると、群衆はイエスに押し迫って来た。

Luk 8:43 そこに、十二年の間、長血をわずらい、医者たちに財産すべてを費やしたのに、だれにも治してもらえなかった女の人がいた。

(1) 群衆は、イエスに押し迫って来た。

①これは、長血の女がイエスに触れる状況の説明となっている。

(2) 長血とは、血の流出が続く病である。

①健康が害されていた。

②儀式的に汚れていた。共同体から隔離されていた。

③自己嫌悪に陥っていた。

④イエスは、このような者のために来られたのである (ルカ 4 : 18~19)。

(3) 彼女は、12 年間も治療を受けてきたが、どの医者も治すことができなかった。

①彼女は、財産すべてを費やした。

②ルカは、イエスだけが彼女を治すことができるという点を強調している。

2. 44 節

Luk 8:44 彼女はイエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。すると、ただちに出血が止まった。

(1) 彼女の信仰は、迷信的なものである。

①イエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。

②すると、ただちに出血が止まった。

③神は、不完全な信仰さえも受け入れてくださった。

④使 5 : 15 にも似たような例が出てくる。

Act 5:15 そしてついには、病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせて、ペテロが通りかかるときには、せめてその影だけでも、病人のだれかにかかるようにするほどになった。

3. 45~46 節

Luk 8:45 イエスは、「わたしにさわったのは、だれですか」と言われた。みな自分ではないと言ったので、ペテロは、「先生。大勢の人たちが、あなたを囲んで押し合っています」と言った。

Luk 8:46 しかし、イエスは言われた。「だれかがわたしにさわりました。わたし自身、自分から力が出て行くのを感じました。」

(1) イエスは、誰が自分にさわったのかと質問した。

①ペテロは、大勢の人たちがあなたにさわっているとイエスに言った。

②ルカだけが、ペテロという名を出している。描写に現実味が出てくる。

(2) イエスは、ある意図を持ってこの質問をした。

①イエスは、時には、信仰のない人を癒すことがあった。

②ここでは、信仰によってイエスから力を引き出した人がいる。

③この力は、聖霊の力である。

*イエスの内にある神の力が移動したということである。

*イエスの力が減少したということではない。

④イエスは、その人物を励まし、その信仰を育てようとした。

⑤ルカ 6 : 19

Luk 6:19 群衆はみな何とかしてイエスにさわろうとしていた。イエスから力が出て、すべての人を癒やしていたからである。

4. 47～48 節

Luk 8:47 彼女は隠しきれないと知って、震えながら進み出て御前にひれ伏し、イエスにさわった理由と、ただちに癒やされた次第を、すべての民の前で話した。

Luk 8:48 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

(1) 彼女は、震えながら御前にひれ伏した。

①儀式的に汚れていながら、群衆の中にいた。

②御前にひれ伏したのは、感謝の表現である。

(2) 自分に起ったことをすべて民の前で話した。

①イエスにさわった理由

②ただちに癒された次第

(3) イエスは、公に彼女を祝福した。

①「娘よ」。神の家族の一員となった。

②「あなたの信仰があなたを救った」。魔術ではなく信仰による癒しが起った。

③「安心して行きなさい」。共同体での生活に復帰するために必要な宣言である。

Ⅲ. ヤイロの娘の蘇生 (49～56 節)

1. 49～50 節

Luk 8:49 イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすことはありません。」

Luk 8:50 これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れなくて、ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われます。」

(1) 今度は、ヤイロの信仰が試される番になった。

①彼は、イエスが儀式的汚れと病に勝利するのを目撃した。

②今度は、イエスが儀式的汚れと死に勝利することを信じるかどうかを試される。

(2) 「お嬢さんは亡くなりました」

①語順は、「Dead is your daughter.」である。

＊「死んだ」という点に強調がある。

＊時制は完了形である。

②「もう、先生を煩わすことはありません」

(3) しかしイエスは、ヤイロを励まし、彼の信仰を支えた。

①信仰があれば、娘は救われる。

②特に、神の時にに関する信仰が要求された。

③長血の女の割り込みは、神の力を無効にするものではない。

2. 51 節

Luk 8:51 イエスは家に着いたが、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、そしてその子の父と母のほかは、だれも一緒に入ることをお許しにならなかった。

(1) ヤイロは、信仰を持ち続けた。

①イエスを家に招き入れたことが、その証拠である。

(2) イエスは、少数の者だけに入室を許した。

①ペテロ、ヨハネ、ヤコブ

＊12 弟子のトップ 3 が証人となった。

＊この順位は、教会時代になってから大きな意味を持つようになる。

②その子の父と母

③少数者に限定した理由

＊部屋が狭かった。

＊蘇生した少女が驚かないように。

＊できるだけ公にならないように。

3. 52～53 節

Luk 8:52 人々はみな、少女のために泣き悲しんでいた。しかし、イエスは言われた。「泣かなくてよい。死んだのではなく、眠っているのです。」

Luk 8:53 人々は、少女が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。

(1) 人々はみな、泣き悲しんでいた。

①死ぬとすぐに葬儀の準備を始めるのは、当時の習慣である。

②彼らには、イエスに対する信仰はなかった。

(2) イエスは、「泣かなくてよい」と言われた。

①「死んだのではなく、眠っているのです」

- ②娘の死は、一時的なものである。
- ③神の視点からすると、死は一時的な眠りである。
- ④イエスはこの娘を蘇生させる。

4. 54～55 節

Luk 8:54 しかし、イエスは少女の手を取って叫ばれた。「子よ、起きなさい。」

Luk 8:55 すると少女の霊が戻って、少女はただちに起き上がった。それでイエスは、その子に食べ物を与えるように命じられた。

- (1) イエスは、少女の手を取って叫ばれた。
 - ①イエスは、汚れ（死体）に触れても、汚れを受けることがない。
 - ②イエスは、モーセの律法の上に立つ方である。
 - ③イエスは、ことばを発することでその少女を蘇生させた。
- (2) 彼女は確かに死んでいた。
 - ①離れていた霊が、肉体に戻ってきた。
 - ②この蘇生は、瞬時に起った。
 - ③イエスは、その子に食べ物を与えるように命じられた。
 - ④この体は、食物によって維持されなければならない体である。

5. 56 節

Luk 8:56 両親が驚いていると、イエスは、この出来事をだれにも話さないように命じられた。

- (1) 両親は驚いた。
 - ①蘇生が実際に起ったということである。
 - ②イエスは、この出来事をだれにも話さないように命じられた。
 - *誤った動機で人々がイエスに近づかないように。

結論

1. 複合的奇跡の意味

- (1) 福音書に出てくる唯一の複合的奇跡である。
 - ①病からの解放と死からの解放
- (2) この奇跡は、イエスの本質を証明する奇跡のクライマックスである。
 - ①イエスは、人であり神である。
 - ②イエスは、力とあわれみに満ちたお方である。

2. 信仰の力

(1) 長血の女は、信仰によってその病が癒された。

①彼女の信仰は、迷信的なものであった。

②しかし神は、その信仰を受け入れられた。

(2) ヤイロは、より深い信仰を持つように期待された。

①神の時を認めるという信仰

②娘は蘇生するという信仰

3. イエスの知恵

(1) イエスは、長血の女を公の場での信仰告白に導いた。

①彼女の社会復帰を保証した。

(2) イエスは、少女の両親に沈黙を命じた。

①イエスのメシア性を証明する奇跡は、公の場で行われた。

②ここでの奇跡は、個人的な要請に基づくものである。

③イエスは、人々がしるしを見るために近づいてくることを嫌われた。

ルカの福音書 42 回

12 人の派遣

ルカ 9 : 1～6

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4 : 14～9 : 50）
- ②ルカ 9 : 1～50 は、そのクライマックスである。
- ③エルサレムへの旅（ルカ 9 : 51～19 : 10）へのブリッジである。
- ④ルカ 9 : 1～50 の中心テーマは、弟子訓練である。
- ⑤これまでは、イエスの奉仕は民衆を対象としたものであった。
 - *イエスは、力と恵によってご自分がメシアであることを証明された。
 - *12 人は、イエスのお供をする人たちであった。
- ⑥ここから、12 人に対する弟子訓練が始まる。
 - *教会時代への準備が始まる。

(2) 弟子訓練の内容

- ①ご自分が何者であるかについて教える。
- ②メシアの受難について教える。
- ③弟子として受ける苦しみについて教える。

(3) ルカ 9 : 1～17 の内容（サンドイッチ構造）

- ①12 人の派遣（1～6 節）
- ②挿入句的エピソード（ヘロデの心理状態）（7～9 節）
- ③12 人の帰還（10～17 節）

2. アウトライン

- (1) 12 人の派遣の目的（1～2 節）
- (2) 派遣に際しての指示（3～5 節）
- (3) 12 人の奉仕の要約（6 節）

3. 結論

- (1) 聖句の適用に関して
- (2) 弟子訓練に関して

12 人の派遣について学ぶ。

I. 12 人の派遣の目的 (1～2 節)

1. 1 節

Luk 9:1 イエスは十二人を呼び集めて、すべての悪霊を制して病気を癒やす力と権威を、彼らにお授けになった。

(1) イエスは 12 人に「力」と「権威」を授けた。

- ①力（デュナミス）－悪霊を制して病を癒す能力
- ②権威（エクスーシア）－その力を行使する権利
- ③この 2 つを挙げているのは、ルカだけである。
- ④他の福音書では、「権威」だけが出てくる。

(2) ルカの福音書における「力」と「権威」の使用例

①カペナウムの会堂での悪霊の追い出し（ルカ 4：36）

Luk 4:36 人々はみな驚いて、互いに言った。「このことばは何なのだろうか。権威と力をもって命じられると、汚れた霊が出て行くとは。」

2. 2 節

Luk 9:2 そして、神の国を宣べ伝え、病人を治すために、こう言って彼らを遣わされた。

(1) 派遣する目的は、2 つある。

①神の国を宣べ伝えるため

- *神の国の王であるメシアが到来された。
- *この方を受け入れて、救われよ。
- *これが、この時点での福音の内容である。

②病人を治すため

- *彼らが伝える福音の信頼性が証明される。

(2) ルカの強調点

①福音書でも使徒の働きでも、同じ強調点が見られる。

②福音の信頼性は、しるしと不思議によって証明される。

③偽教師たちも奇跡を行うことができた。

- *彼らは、悪魔の力によってそれを行った。
- *使 13：6～10、19：13

④イエスの弟子なら、なおさら、イエスが行ったような奇跡を行う必要があった。

- *12 人には、すべての悪霊を制する力と権威が授けられた。
- *また、病気を癒す力と権威が授けられた。

- *イエスは、人々の魂の健康と肉体の健康に関心を払われた。
- *12 人も、イエスと同じ関心を持つ。

II. 派遣に際しての指示 (3～5 節)

1. 3 節

Luk 9:3 「旅には何も持って行かないようにしなさい。杖も袋もパンも金もです。また下着も、それぞれ二枚持つてはいけません。

- (1) 彼らは、神に信頼するように命じられた。
 - ①身軽な姿で旅をすることが勧められた。
 - ②つまり、茨の土壌になってはいけないということである。
 - ③ルカ 8:14

Luk 8:14 茨の中に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らはみことばを聞いたのですが、時がたつにつれ、生活における思い煩いや、富や、快樂でふさがれて、実が熟すまでになりません。

- (2) 持って行くことを禁じられたもの
 - ①杖（短い旅なら必要ない）
 - ②袋（物乞いするときの袋）
 - ③パン（食物）
 - ④金
 - ⑤余分な下着（キトン。英語では coat）
- (3) ここでは、小規模な伝道旅行が想定されている。
 - ①短時間なら、このようなライフスタイルを維持することは可能である。
 - ②ここでは、福音伝達の緊急性が示唆されている。

2. 4～5 節

Luk 9:4 どの家に入っても、そこにとどまり、そこから出かけなさい。

Luk 9:5 人々があなたがたを受け入れないなら、その町を出て行くときに、彼らに対する証言として、足のちりを払い落としなさい。」

- (1) イエスの弟子たちを自分の家に受け入れる人は、神の国を受け入れた人である。
 - ①その人は、感謝を表すためにイエスの弟子たちをもてなすのである。
- (2) 家々を渡り歩いてはいけない。
 - ①より良い条件の家を求めていると解釈されないために、同じ家にとどまる。

②渡り歩くことは、家を開いてくれた人に対する侮辱となる。

(3) 歓迎してくれる家がない場合

①その町を出て行くときに、足のちりを払い落とす。

②これは、町の人たちに対する証言である。

③ユダヤ人の旅人は、異邦人の地を去るときに、足のちりを払い落とした。

④これは、異邦人の汚れを拒否するという象徴的な行為である。

⑤ここでは、不信仰なユダヤ人を拒否するという象徴的行為になっている。

⑥不信仰なユダヤ人を異邦人と同等に扱うという意味である。

(4) 個人ではなく、町全体が拒否される。

①マタ 10 : 14～15

Mat 10:14 だれかがあなたがたを受け入れず、あなたがたのことばに耳を傾けないなら、その家や町を出て行くときに足のちりを払い落としなさい。

Mat 10:15 まことに、あなたがたに言います。さばきの日には、ソドムとゴモラの地のほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。

Ⅲ. 12 人の奉仕の要約 (6 節)

1. 6 節

Luk 9:6 十二人は出て行って、村から村へと巡りながら、いたるところで福音を宣べ伝え、癒やしを行った。

(1) 奉仕の要約が簡潔に書かれている。

①2 人一組になって派遣された (マコ 6 : 7)。

Mar 6:7 また、十二人を呼び、二人ずつ遣わし始めて、彼らに汚れた霊を制する権威をお授けになった。

②手本は、イエスの宣教である。

＊村から村へと巡り歩いた。

＊いたるところで福音を宣べ伝えた。

＊癒しを行った。

(2) ルカは、弟子たちの宣教活動の内容よりも、イエスの教えを強調している。

結論

1. 聖句の適用に関して

(1) ここでのイエスの教えは、12 人に向けられたものである。

- ①神の国の到来が、福音の内容である。
- ②短期間の宣教旅行が想定されている。
- ③力と権威の付与は、福音の信頼性を担保するために必要であった。
- (2) 教会時代の聖徒たちに、そのまま適用すべきではない。
 - ①普遍的真理がどこにあるかを考える。
 - ②イエスの弟子たちには、単純なライフスタイルが求められている。
 - ③これが普遍的適用である。
 - ④イエスの弟子であるなら、短い人生を身軽に生きるべきである。

2. 弟子訓練に関して

- (1) ナザレでの拒否は、十字架の死のドレスリハーサルであった。
- (2) 短期伝道旅行での成功と失敗の体験は、教会時代の伝道のドレスリハーサル。
- (3) 自分の人生のドレスリハーサルとは何か、考えてみよう。
- (4) やがて訪れる事態に対応できるように、神は私たちを訓練される。

ルカの福音書 43 回

12 人の帰還

ルカ 9 : 7～17

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4 : 14～9 : 50）
- ②ルカ 9 : 1～50 は、そのクライマックスである。
- ③エルサレムへの旅（ルカ 9 : 51～19 : 10）へのブリッジである。
- ④ルカ 9 : 1～50 の中心テーマは、弟子訓練である。

＊教会時代への準備が始まる。

(2) 弟子訓練の内容

- ①ご自分が何者であるかについて教える。
- ②メシアの受難について教える。
- ③弟子として受ける苦しみについて教える。

(3) ルカ 9 : 1～17 の内容（サンドイッチ構造）

- ①12 人の派遣（1～6 節）
- ②挿入句的エピソード（ヘロデの心理状態）（7～9 節）
- ③12 人の帰還（10～17 節）

2. アウトライン

- (1) ヘロデの心理状態（7～9 節）
- (2) 12 人の帰還：ベツサイダへの移動（10～11 節）
- (3) 12 人の帰還：パンと魚の奇跡（12～17 節）

3. 結論

- (1) イエスを求める動機
- (2) 群衆を歓迎するイエス
- (3) 奉仕者に与えられる祝福

12 人の帰還について学ぶ。

I. ヘロデの心理状態（7～9 節）

1. 7～8 節

Luk 9:7 さて、領主ヘロデはこのすべての出来事を聞いて、ひどく当惑していた。ある人たちは、「ヨハネが死人の中からよみがえったのだ」と言い、

Luk 9:8 別の人たちは、「エリヤが現れたのだ」と言い、さらに別の人たちは、「昔の預言者の一人が生き返ったのだ」と言っていたからである。

(1) ガリラヤ伝道の期間における最大のテーマは、「イエスとは誰か」である。

- ①弟子訓練の目的の一つは、「イエスとは誰か」を教えることである。
- ②この段階での弟子たちの理解は、未だに不十分なものである。
- ③ヘロデのエピソードは、「12 人の派遣」という文脈の中に置かれている。
- ④ルカは、「イエスとは誰か」というテーマの重要性を強調している。

(2) ガリラヤの人々は、イエスに関してさまざまな意見を持っていた。

- ①ヨハネが死人の中からよみがえったのだ。
- ②エリヤが現れたのだ。
- ③昔の預言者の一人が生き返ったのだ。
- ④イエスに関するうわさがヘロデの耳にも届いた。

(3) 領主ヘロデとは、ヘロデ・アンティパスのことである。

- ①彼は、父ヘロデ大王の領土の 4 分の 1 を継承した領主である。
 - *テトラークというタイトル（国主という訳もある）。
- ②彼は、ガリラヤとペレアを統治していた。
- ③自分の領地で奇跡を行う者がいるといううわさが、彼の耳に届いた。
 - *イエスと 12 人の弟子たちの活動
 - *宮廷内でも、このうわさが広がっていた。
- ④彼は、ひどく当惑した（戸惑った）。

2. 9 節

Luk 9:9 ヘロデは言った。「ヨハネは私が首をはねた。このようなうわさがあるこの人は、いったいだれなのだろうか。」ヘロデはイエスに会ってみたいと思った。

(1) ヘロデが当惑した理由は、彼がヨハネの首をはねたからである。

- ①彼の内には、罪責感から来る恐れがあった。

(2) 「このようなうわさがあるこの人は、いったいだれなのだろうか」

- ①ヘロデのエピソードの中心点は、この質問である。
- ②マコ 6:16 では、これとは異なる記述がある。

Mar 6:16 しかし、ヘロデはこれを聞いて言った。「私が首をはねた、あのヨハネがよみがえ

ったのだ。」

③両方の聖句を比較すると、ヘロデの思案が読み取れる。

＊イエスについてのうわさを聞いた。

＊イエスとは誰なのかと思案した。

＊思案した結果、自分が首をはねたヨハネがよみがえったと結論づけた。

(3) 「ヘロデはイエスに会ってみたいと思った」

①ルカは、このテーマを後に発展させる。

II. 12 人の帰還：ベツサイダへの移動（10～11 節）

1. 10 節

Luk 9:10 さて、使徒たちは帰って来て、自分たちがしたことをすべて報告した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。

(1) 12 人の宣教旅行は終わった。

①「12 人」から「使徒」という呼び名に変っている。

②彼らは、イエスによって遣わされた者たちである。

③ルカは、使徒の働きでの彼らの奉仕の道備えをしている。

(2) 彼らは、イエスに宣教旅行の報告をした。

①派遣された者が派遣した者に結果報告するのは、使徒の働きの原則である。

②彼らは、高揚した状態にあった。

③イエスは、弓の弦を緩める必要があることを知っておられた。

(3) イエスは、彼らを連れて、ベツサイダという町にひそかに退かれた。

①使徒たちに休息を与えようとした。

②イエスと使徒たちは、カペナウムからベツサイダに移動した。

＊東に向い、ヨルダン川を越えるとベツサイダがある（ガリラヤ湖の北東）。

③私たちも、ベツサイダに退く必要がある。

2. 11 節

Luk 9:11 ところが、それを知った群衆がイエスの後について来た。イエスは彼らを喜んで迎え、神の国のことを話し、また、癒やしを必要とする人たちを治された。

(1) 群衆は、イエスの後について来た。

①この時期、イエスの人気は絶頂期にあった。

②群衆がついて来るのは、いつものことである。

(2) イエスは、彼らを歓迎された。

①「イエスは彼らを喜んで迎え、」と書いているのは、ルカだけである。

②イエスの愛とあわれみが強調されている。

③イエスの奉仕

＊神の国の福音を伝える。

＊病人を癒す。

Ⅲ. 12 人の帰還：パンと魚の奇跡（12～17 節）

1. 12 節

Luk 9:12 日が傾き始めたので、十二人はみもとに来て言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、彼らは周りの村や里に行き、宿をとり、何か食べることができるでしょう。私たちは、このような寂しいところにいるのですから。」

(1) 12 人は、イエスに提案した。

①群衆を解散させてください。

②ここは寂しいところである。

③明るい内なら、周りの村や里に行くことができる。

④彼らは、宿を見つけ、食事をする必要がある。

2. 13～15 節

Luk 9:13 すると、イエスは彼らに言われた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」彼らは言った。「私たちには五つのパンと二匹の魚しかありません。私たちが出かけ行って、この民全員のために食べ物を買うのでしょうか。」

Luk 9:14 というのは、男だけでおよそ五千人もいたからである。しかし、イエスは弟子たちに言われた。「人々を、五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい。」

Luk 9:15 弟子たちはそのとおりにして、全員を座らせた。

(1) イエスの回答は、弟子訓練を目的としたものである。

①「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい」

②男だけで 5 千人もいた。

③弟子たちは、「私たちには五つのパンと二匹の魚しかありません」と答えた。

④弟子たちは、自分たちの無力を認識させられた。

⑤それゆえ、神に信頼するしかない。

⑥2 列 4 : 42～44

2Ki 4:42 ある人がバアル・シャリシャから、初穂のパンである大麦のパン二十個と、新穀一袋を、神の人のところに持って来た。神の人は「この人たちに与えて食べさせなさい」と命じ

た。

2Ki 4:43 彼の召使いは、「これだけで、どうして百人もの人に分けられるでしょうか」と言った。しかし、エリシャは言った。「この人たちに与えて食べさせなさい。【主】はこう言われる。『彼らは食べて残すだろう。』」

2Ki 4:44 そこで、召使いが彼らに配ると、彼らは食べて残した。【主】のことばのとおりであった。

(2) イエスは、12 使徒たちに、神に信頼することを教えた。

- ①「人々を、五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」
- ②弟子たちはそのとおりにして、全員を座らせた。

3. 16～17 節

Luk 9:16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。

Luk 9:17 人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、十二かごあった。

(1) 奇跡が起るプロセス

- ①イエスは、5つのパンと2匹の魚を手にとった。
- ②天を見上げて、神の御名をたたえた。
- ③それを裂き、弟子たちに与えた。
- ④弟子たちは、群衆にそれを与えた。
- ⑤人々はみな、食べて満腹した。
- ⑥余ったパン切れは、12 かごにもなった。

(2) 余ったパン切れは12 かごあった。

- ①ここでの「かご」は「コフィナス」である。
- ②清浄食物を持ち運ぶために用いた手持ちの小さなかごである。
- ③イエスは、ご自分の奉仕者を祝福される。
- ④奉仕した12人にも、パンが与えられた。

結論

1. イエスを求める動機

(1) ヘロデは、イエスに会いたいと思ったが、すぐには実現しなかった。

①ルカ 13 : 31～32

Luk 13:31 ちょうどそのとき、パリサイ人たちが何人か近寄って来て、イエスに言った。「こ

こから立ち去りなさい。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」

Luk 13:32 イエスは彼らに言われた。「行って、あの狐にこう言いなさい。『見なさい。わたしは今日と明日、悪霊どもを追い出し、癒やしを行い、三日目に働きを完了する。』」

②ルカ 23：6～12（ピラトはイエスをヘロデのもとに送った）

(2) ヘロデは、好奇心と敵対心のゆえにイエスに会ってみたいと思った。

①信仰が動機ではなかった。

②ヘロデはイエスに会いながら、イエスの本質を見ることはできなかった。

2. 群衆を歓迎するイエス

(1) ルカは、イエスをすぐそばにいる助け主として描いた。

(2) ヘブ 4：15～16

Heb 4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しましたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

Heb 4:16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

(3) ヘブ 13：8

Heb 13:8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。

3. 奉仕者の祝福

(1) イエスとともに働くなら、自分の力以上のことが可能になる。

(2) 12 使徒たちにもパンが与えられた。

①余ったパン切れを集めると、12 かごあった。

(3) 12 使徒たちは、神の奇跡に参加した。

①パンと魚の奇跡は、四福音書すべてに記録された唯一の奇跡である。

②彼らは、「イエスとは誰か」という質問の再考を迫られた。

(4) この奇跡は、次回取り上げるペテロの信仰告白の準備となっている。

①あなたは、「イエスとは誰か」という質問にどう答えるか。

ルカの福音書 44 回

ペテロの信仰告白

ルカ 9 : 18～27

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4 : 14～9 : 50）
- ②ルカ 9 : 1～50 は、そのクライマックスである。
- ③エルサレムへの旅（ルカ 9 : 51～19 : 10）へのブリッジである。
- ④ルカ 9 : 1～50 の中心テーマは、弟子訓練である。

＊教会時代への準備が始まる。

(2) ルカ 9 : 1～27 の内容

- ①12 人の派遣（1～6 節）
- ②挿入句的エピソード（ヘロデの心理状態）（7～9 節）
- ③12 人の帰還（10～17 節）
- ④ペテロの信仰告白（18～27 節）

＊ルカだけが、5000 人の給食の直後に、ペテロの信仰告白を置いている。

＊イエスが誰かということを強調するためである。

2. アウトライン

- (1) ペテロの信仰告白（18～20 節）
- (2) イエスによる受難の予告（21～22 節）
- (3) 弟子が負う十字架（23～27 節）

3. 結論：ルカ 9 : 27 の「神の国を見る」の意味

ペテロの信仰告白とそれに続くイエスの教えについて学ぶ。

I. ペテロの信仰告白（18～20 節）

1. 18～19 節

Luk 9:18 さて、イエスが一人で祈っておられたとき、弟子たちも一緒にいた。イエスは彼らにお尋ねになった。「群衆はわたしのことをだれだと言っていますか。」

Luk 9:19 彼らは答えた。「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだと言う人たち、昔の預言者の一人が生き返ったのだと言う人たちもいます。」

- (1) ルカは、他の福音記者たちが記録している多くの情報を省略している。

- ①このことが起った場所はピリポ・カイザリヤであるが、その情報は出て来ない。
- ②ルカの視点からすると、場所に関する情報は重要なものではない。
- ③「この人は、いったい誰なのだろうか」という質問は重要である。
 - *ヘロデは、直接的にこの質問をした。
 - *群衆は、パンを食べながら間接的にこの質問をした。
- ④この質問への回答が、ペテロの信仰告白である。
- ⑤イエスを誰だと考えるかによって、私たちの生き方は変わってくる。

(2) 「イエスが一人で祈っておられたとき」

- ①ルカだけがこれを書いている。
- ②イエスは、父なる神に絶対的な信頼を置いていた。
- ③ルカ 9 : 16

Luk 9:16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。

- ④5000 人の給食も、ペテロの信仰告白も、祈りに対する答えである。
- ⑤ここでは、イエスは弟子たちが正しい信仰に導かれるように祈られた。

(3) 「群衆はわたしのことをだれだと言っていますか」

- ①群衆とは、まだ態度を決めていない人々である。
- ②「群衆は自分が果たしている役割をどう評価しているのか」という質問である。

(4) 弟子たちの答えは、すでにルカ 9 : 7～8 に出ていた内容である。

- ①バプテスマのヨハネ
- ②エリヤ
- ③昔の預言者の一人が生き返った。

2. 20 節

Luk 9:20 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロが答えた。「神のキリストです。」

(1) 「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」

- ①イエスは、同じ質問を弟子たちに向けた。

(2) ペテロは弟子集団を代表して、「神のキリストです」と答えた。

- ①「神のキリスト」とは、神から送られたメシアという意味である。
- ②ペテロは、イエスが偉大な預言者であるという理解を否定した。

*イスラムの教理では、イエスは偉大な預言者である。

③ペテロは、イエスが旧約聖書で約束されたメシアであることを信じた。

④当時のユダヤ人が持っていたメシア像

*メシアはダビデの子孫である。

*ローマの支配を打ち破り、地上に神の国を建設する。

*メシアを神とは考えない。

(3) マタ 16 : 15～16

Mat 16:15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」

Mat 16:16 シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神の子キリストです。」

①「生ける神の子」は、イエスの神性を示すことばである。

②ペテロは、イエスの神性を信じた。

③ルカは、「生ける神の子」ということばを省略した。

*異邦人は、「キリスト」ということばは神性を示していると理解していた。

*異邦人の読者は、ペテロの告白はイエスの神性を認めたものと理解した。

II. イエスによる受難の予告 (21～22 節)

1. 21 節

Luk 9:21 するとイエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じられた。

(1) イエスは、このことを誰にも話さないように弟子たちに命じた。

①群衆が騒ぎ立てると、今後の奉仕に支障が出る。

②時が来たなら、イエスはご自身がこのことを明らかにされる。

③勝利の入城の時が、それである。

2. 22 節

Luk 9:22 そして、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日目によみがえらなければならない、と語られた。

(1) ルカは、いくつかの重要な情報を省いている。

①教会設立の預言

②ペテロがイエスをいさめた出来事

③イエスがペテロを叱責した出来事

④ルカは、受難の予告に焦点を合わせるために、それ以外の情報を省略している。

(2) これは、イエスが語った最初の受難の予告である。

①メシアの受難は、弟子訓練のための重要なテーマである。

＊指導者たちに捨てられる。

＊殺される。

＊3 日目によみがえる。

②イエスによる受難の予告は、毎回、復活の希望で終わる。

③弟子たちは、毎回、この予告を理解することができない。

(3) 「人の子」というタイトル

①ダニ 7 : 13~14

Dan 7:13 私がまた、夜の幻を見てみると、／見よ、人の子のような方が／天の雲とともに来られた。／その方は『年を経た方』のもとに進み、／その前に導かれた。

Dan 7:14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、／諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、／この方に仕えることになった。／その主権は永遠の主権で、／過ぎ去ることがなく、／その国は滅びることがない。

②人の子は、世界を統治する方である。

③イエスは、殺されるが、復活して世界を統治するようになる。

④弟子たちは、そのようなことが起るとは信じられなかった。

Ⅲ. 弟子が負う十字架 (23~27 節)

1. 23 節

Luk 9:23 イエスは皆に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。

(1) 次にイエスは、イエスの弟子たちが経験する苦難について教える。

①「わたしについて来たいと思うなら」とは、弟子になりたいならという意味。

②「自分を捨て」とは、物を捨てるよりも根本的な自我の否定である。

＊自分の栄光ではなく、神の栄光を求める姿勢

③「自分の十字架を負って」とは、弟子として受ける非難を甘受することである。

④信者には、未信者にはない重荷が与えられている。

⑤イエスの弟子には、イエスのライフスタイルに倣って生きることが求められる。

2. 24~26 節

Luk 9:24 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを救うのです。

Luk 9:25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の益があるでしょうか。

Luk 9:26 だれでも、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子もまた、自分と父と聖なる御使いの栄光を帯びてやって来るとき、その人を恥じます。

- (1) 信者には2つの選択肢が与えられている。
 - ①自分の栄光を求めて生きる道。その者は、人生の意味を見失う。
 - ②神の栄光を求めて生きる道。その者は、人生の本当の意味を見いだす。

- (2) 献身を妨害する最大の要因は、物欲である。
 - ①全世界を手に入れるとは、物質的に富むことである。
 - ②そうなったとしても、本当の人生を味わっていないなら、なんの益もない。

- (3) 今の状況と将来の状況を対比させる。
 - ①信者には、現世においてキリストと神のことばを恥じる可能性がある。
 - *この世から受け入れられないことを、恥ずかしく思う。
 - ②キリストは、栄光の姿で再臨されるとき、そのような人を恥じる。
 - *来たるべき世においては、より大きな恥を受けることになる。

3. 27 節

Luk 9:27 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」

- (1) 「神の国を見るまでは、決して死を味わわない人たちがいます」
 - ①これは、ペテロとヨハネとヤコブのことである。
 - ②次に続くのは、変貌山の出来事である。
 - ③変貌山では、神の国の予兆が現れた。

結論：ルカ9:27の「神の国を見る」の意味

Luk 9:27 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」

1. 復活を見る。

- (1) イスカリオテのユダを除いた全員が、復活のイエスに出会っている。
- (2) それゆえ、この可能性はない。

2. ペンテコステを見る。

- (1) 使徒たち全員が、ペンテコステの出来事を体験している。
- (2) それゆえ、この可能性はない。
- (3) そもそもペンテコステは、メシア的王国の始まりではない。

3. エルサレムの崩壊を見る。

(1) エルサレムの崩壊は、メシア的王国をもたらしたわけではない。

(2) それゆえ、この可能性はない。

4. メシア的王国そのものが始まるを見る。

(1) 使徒たちが生きている間に、メシア的王国が始まったわけではない。

(2) それゆえ、この可能性はない。

5. 神の国を見るときは、イエスを信じることである。

(1) 見ない人たちとは、イエスを信じない人たちである。

(2) 文脈上、不信者は含まれていないので、この可能性はない。

6. 栄光のイエスを見る。

(1) 変貌山の出来事は、メシア的王国の予兆であり、前味である。

(2) それを目撃するのは、たった3人である。

(3) それ以外の弟子たちは、神の国を見る前に死ぬということが暗示されている。

(4) イエスは、神の国の成就が延期されたことを示しておられる。

(5) 神の国（メシア的王国）の重要性を理解しないと、終末論は整理されない。

(6) 弟子たちが期待した神の国は、再臨のメシアによって地上に成就する。

ルカの福音書 45 回

イエスの変貌

ルカ 9 : 28～36

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4 : 14～9 : 50）
- ②ルカ 9 : 1～50 は、そのクライマックスである。
- ③エルサレムへの旅（ルカ 9 : 51～19 : 10）へのブリッジである。
- ④ルカ 9 : 1～50 の中心テーマは、弟子訓練である。

＊教会時代への準備が始まる。

(2) ルカ 9 : 1～36 の内容

- ①12 人の派遣（1～6 節）
- ②挿入句的エピソード（ヘロデの心理状態）（7～9 節）
- ③12 人の帰還（10～17 節）
- ④ペテロの信仰告白（18～27 節）
- ⑤イエスの変貌（28～36 節）

＊3 人の弟子たちが、「イエスの本当の姿」を目撃する。

＊「イエスとは誰か」というモチーフのクライマックスである。

＊共観福音書に出てくるが、ヨハネの福音書には出てこない。

2. アウトライン

- (1) イエスの変貌（28～31 節）
- (2) ペテロの反応（32～33 節）
- (3) 父なる神の声（34～36 節）

3. 結論

- (1) イエスとは誰か
- (2) 変貌の出来事の意味

イエスの変貌について学ぶ。

I. イエスの変貌（28～31 節）

1. 28 節

Luk 9:28 これらのことを教えてから八日ほどして、イエスはペテロとヨハネとヤコブを連れ

て、祈るために山に登られた。

(1) 「八日ほどして」 (about eight days after these sayings)

①ルカ 9 : 27

Luk 9:27 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」

②前回、「神の国を見る」とは「栄光のイエスを見る」ことだと解説した。

(2) マタ 17 : 1 とマコ 9 : 2 では、「それから六日目に」となっている。

①6 日目とは、イエスの教えの日から変貌の日までに経過した日数である。

②8 日ほどしては、イエスの教えの日と変貌の日の両方を含む日数である。

(3) ルカは、ペテロとヨハネとヤコブという順番で 3 人の弟子を紹介している。

①通常は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの順番である。

②ルカ 8 : 51

Luk 8:51 イエスは家に着いたが、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、そしてその子の父と母のほかは、だれも一緒に入ることをお許しにならなかった。

③ルカは、ペテロとヨハネを関連づけようとしている。

④この 2 人は、エルサレム教会の指導者となる。

(4) 「祈るために山に登られた」

①「山」には定冠詞が付いている。

②ルカは山の名前を書いていないが、信者の間では良く知られていたであろう。

③この山は、ヘルモン山であろう (ピリポ・カイザリアのすぐ北にある山)。

④タボル山の可能性は低い。

* 当時は、山頂に偶像の宮が建てられていた。

⑤ルカは、イエスの祈りの生活を強調している。

2. 29 節

Luk 9:29 祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いた。

(1) ここでは、変貌の出来事は祈りの答えとして描かれている。

①祈りの結果、弟子たちに啓示が与えられた。

(2) マタイとマルコは、「メタモフォオウ」という動詞を使用している。

①このことばは、変質、変形、生物学上の変態などを意味する。

②ルカは、「エゲネト ヘテロン」 (became different、別の姿にvari) を使用。

- ③ルカは、ギリシア人の読者に誤解を与えないために配慮している。
- ④「メタモフォオウ」は、ギリシア神話の神々が変身するときに用いられる。
- ⑤イエスは、ギリシア神話の神々以上のお方である。

(3) その衣は白く光り輝いた。

- ①ルカの福音書と使徒の働きでは、衣はその人の地位や本質を表している。
- ②光り輝く衣は、天的栄光の現れである。
- ③ルカ 24 : 4

Luk 24:4 そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。

④使 1 : 10

Act 1:10 イエスが上って行かれるとき、使徒たちは天を見つめていた。すると見よ、白い衣を着た二人の人が、彼らのそばに立っていた。

- ⑤衣の輝きは、イエスの内側にあったシャカイナグローリーの輝きである。
- ⑥シャカイナグローリーが、肉体という幕屋を通過して輝き出たのである。
- ⑦3 人の弟子たちは、それを目撃した。これは弟子訓練のための体験である。

3. 30～31 節 a

Luk 9:30 そして、見よ、二人の人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤで、
Luk 9:31a 栄光のうちに現れ、

(1) 2 人の人がイエスと語り合っていた。

- ①イエスが受けようとしている苦難を理解できる人は、地上にはいなかった。
- ②モーセとエリヤが登場した目的は、イエスを励ますためである。

(2) モーセは、イスラエルの民をエジプトから解放したリーダーである。

- ①彼は、シナイ山で神と出会った (出 24 章)。
- ②彼は、民に律法を付与することによってヤハウエ礼拝を確立した。
- ③彼は、神によって葬られた。その墓を知る者はいない (申 34 : 5～6)。
- ④彼は、イエスの復活の予表である。
- ⑤また彼は、聖徒たちの復活の予表である。

(3) エリヤは、将来イスラエルの民の心を神に向けさせる預言者である。

- ①シナイ山で神と出会ったのは、モーセとエリヤだけである (1 列 19 章)。
- ②エリヤは、背教の時代にヤハウエ礼拝を守った。
- ③彼は、生きたまま天に挙げられた。

④彼は、イエスの昇天の予表である。

⑤また彼は、聖徒たちの携挙の予表である。

(4) 彼らは、人である。「二人の人」とある。

①彼らは、イエスのように変貌したわけではない。

②彼らは、イエスの栄光に包まれていただけである。栄光の反射とも言える。

③イエスは、この 2 人の旧約聖書の偉人よりもはるかに偉大である。

4. 31 節 b

Luk 9:31b イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について、話していたのであった。

(1) ルカだけが、3 人の会話の内容を記している。

①「エルサレムで遂げようとしておられる最期について」

②「最期」は「エクソドス」である。

③イエスが達成（成就）されるのは、霊的出エジプトである。

＊これは、受難のしもべの預言の成就である。

④イスラエルの民は、エジプトを脱出した後、荒野の旅を開始した。

⑤イエスの死は、教会が荒野の旅を開始するための幕開けとなる。

＊ここで弟子たちは、荒野の旅に向かうための訓練を受けている。

II. ペテロの反応（32～33 節）

1. 32 節

Luk 9:32 ペテロと仲間たちは眠くてたまらなかったが、はっきり目が覚めると、イエスの栄光と、イエスと一緒に立っている二人の人が見えた。

(1) 弟子たちは、眠くてたまらなかった。

①イエスが祈っている間、いねむりしていた。

②この情報を記しているのは、ルカだけである。

③彼らは、この出来事を受け止めるための霊的準備ができていなかった。

④イエスが祈りの必要性を覚えたのなら、弟子たちは、それに倣うべきである。

(2) 弟子たちは、会話の内容を理解することができなかった。

①しかし、シャカイナグローリーによって、はっきり目が覚めた。

②彼らは、イエスの栄光と、イエスとともに立っている 2 人の人を見た。

2. 33 節

Luk 9:33 この二人がイエスと別れようとしたとき、ペテロがイエスに言った。「先生。私たちがここにいることは素晴らしいことです。幕屋を三つ造りましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために。」ペテロは自分の言っていることが分かっていなかった。

(1) ペテロは、この体験がもっと長く続くことを願った。

①そこで、ある提案をしたが、これは的外れである。

(2) 彼は、幕屋を 3 つ造ることを提案した。

①仮小屋（新共同訳）、小屋（口語訳）、庵（いおり）（文語訳）

②これは、仮庵の祭りのときに建てる仮庵である。

③イエスのために 1 つ、モーセのために 1 つ、エリヤのために 1 つ。

④ペテロは、イエスをモーセやエリヤと同等に扱っている。

⑤さらに、エルサレムに向けて旅立つのを遅らせている。

(3) ペテロはイエスの変貌を見て、神の国（メシア的王国）が到来したと誤解した。

①エルサレムに行くよりは、山上で仮庵の祭りを祝うほうが良いと判断した。

②仮庵の祭りは、荒野の旅を記念すると同時に、メシア的王国を予表する祭り。

③ゼカ 14 : 16

Zec 14:16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。

Ⅲ. 父なる神の声（34～36 節）

1. 34 節

Luk 9:34 ペテロがこう言っているうちに、雲がわき起こって彼らをおおった。彼らが雲の中に入ると、弟子たちは恐ろしくなった。

(1) 雲がわき起こって彼ら（イエス、モーセ、エリヤ）をおおった。

①この雲は、シャカイナグローリーである。

②3 人はシャカイナグローリーに包まれた。

③それを見た弟子たちは、恐ろしくなった。

④神の臨在を身近に感じたとき、恐れを覚えるのは自然なことである。

2. 35 節

Luk 9:35 すると雲の中から言う声がした。「これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。」

(1) 父なる神が、シャカイナグローリーの中から語られた。

①父なる神が語られるのは、これが2度目のことである。

②ルカ 3 : 22

Luk 3:22 聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に降って来られた。すると、天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」

③今回は、イエスのことを「わたしの選んだ子」と言われた。

*イエスには、神としての権威が与えられている。

④また、「彼の言うことを聞け」と言われた。

*イエスの教えよりも人間の教えを優先させることがあってはならない。

3. 36 節

Luk 9:36 この声がしたとき、そこに見えたのはイエスだけであった。弟子たちは沈黙を守り、当時は自分たちの見たことをいっさい、だれにも話さなかった。

(1) 声が去ると、イエスだけがそこに残された。

①イエスの卓越性が啓示されている。

(2) 弟子たちは、沈黙を守った。

①イエス自身が、復活が起るまでは話してはならないと命じられた。

*マタ 17 : 9 とマコ 9 : 9

②これに続いてエリヤに関する議論が起るが、ルカはそれを省略している。

③ルカの強調点は、イエスの権威と卓越性である。

結論

1. 「イエスとは誰か」という質問

(1) イエスは、神であり人である。

(2) イエスは、受難のしもべである。

(3) 3人の会話の内容は、「エルサレムで遂げようとしておられるエクソドス」。

(4) イエスは、「わたしの選んだ子」である。

2. 変貌の出来事の意味

(1) 出エジプト記 24 章との類似点がある。

①モーセは、シナイ山の上でシャカイナグローリーを目撃した。

②3人の弟子たちは、ヘルモン山の上でシャカイナグローリーを目撃した。

(2) この出来事は、キリストの再臨の予表である。

①弟子たちが「神だ」と告白をしたイエスの将来の姿が、ここで啓示された。

②弟子たちは、使徒の働き of 時代に入るための訓練を受けている。

ルカの福音書 46 回
悪霊につかれた少年の癒し
ルカ 9 : 37～45

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4 : 14～9 : 50）
- ②ルカ 9 : 1～50 は、そのクライマックスである。
- ③エルサレムへの旅（ルカ 9 : 51～19 : 10）へのブリッジである。
- ④ルカ 9 : 1～50 の中心テーマは、弟子訓練である。
*教会時代への準備が始まる。

(2) ルカ 9 : 1～45 の内容

- ①12 人の派遣（1～6 節）
- ②挿入句的エピソード（ヘロデの心理状態）（7～9 節）
- ③12 人の帰還（10～17 節）
- ④ペテロの信仰告白（18～27 節）
- ⑤イエスの変貌（28～36 節）
*教会時代に向けた弟子訓練である。
- ⑥悪霊につかれた少年の癒し（37～43 節 a）
*山頂で栄光の姿を現わしたイエスが、山麓で悪霊につかれた少年を癒す。
*イエスは、弟子たちにできないことを行われる。
- ⑦受難の予告（43b～45 節）
*群衆は驚嘆したが、最終的には、彼らはイエスを拒否する。
*それがイエスの十字架の死につながる。

2. アウトライン

- (1) 悪霊につかれた少年の癒し（37～43 節 a）
- (2) 受難の予告（43b～45 節）

3. 結論：弟子訓練の内容

- (1) 信仰の欠如
- (2) 学ぶ力の欠如
- (3) 謙遜の欠如
- (4) 寛容の欠如

悪霊につかれた少年の癒しと受難の予告について学ぶ。

I. 悪霊につかれた少年の癒し（37～43 節 a）

1. 37 節

Luk 9:37 次の日、一行が山から下りて来ると、大勢の群衆がイエスを迎えた。

(1) ルカだけが「次の日」と書いている。

①変貌の出来事は、夜間起こったと考えられる。

*「ペテロと仲間たちは眠くてたまらなかったが、」（32 節）とあった。

②山頂での栄光の現れと山麓での問題（罪と不信仰）との対比がある。

③私たちの人生においても、似たようなことが起こる。

*山頂の体験と麓の体験のくり返し

*イエスは、私たちが直面する現実の問題に介入してくださる。

(2) 4 人が山から下りて来ると、大勢の群衆がイエスを迎えた。

①彼らはイエスを待ちわびていた。彼らは、多くの必要を抱えていた。

②イエスの下山を一番待ちわびていた一人の人が登場する。

2. 38～40 節

Luk 9:38 すると見よ、群衆の中から、一人の人が叫んで言った。「先生、お願いします。息子を見てやってください。私の一人息子です。」

Luk 9:39 ご覧ください。霊がこの子に取りつくと、突然叫びます。そして、引きつけを起こさせて泡を吹かせ、打ちのめして、なかなか離れようとしません。

Luk 9:40 あなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」

(1) 群衆の中から、一人の父親が叫んで言った。

①彼の一人息子が苦しんでいた。

②ルカだけが、「一人息子」と書いている。

(2) ルカは、この少年が「てんかん」持ちだとは書いていない。

①マタ 17:15

Mat 17:15 こう言った。「主よ、私の息子をあわれんでください。てんかんで、たいへん苦しんでいます。何度も火の中に倒れ、また何度も水の中に倒れました。」

②ルカは、少年の苦しみの原因は悪霊にあることを読者に示している。

③悪霊は、てんかに似た症状を作り出していた。

④歴史上、「てんかん＝悪霊つき」とされた時期があった。

- ⑤この少年の症状は、明らかに悪霊の攻撃によるものであった。
- ⑥悪霊が取りつくと、少年はてんかんのような症状を示した。

(3) 弟子たちは無力であった。

- ①弟子たちは、長血の女を治すことができなかった医者たちのようである。
- ②ルカ 8 : 43

Luk 8:43 そこに、十二年の間、長血をわずらい、医者たちに財産すべてを費やしたのに、だれにも治してもらえなかった女の人があった。

- ③これで、イエスの力と権威が発揮される舞台が整った。
- ④イエスは、弟子たちにできなかったことをされる。

3. 41～42 節

Luk 9:41 イエスは答えられた。「ああ、不信仰な曲がった時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいて、あなたがたに我慢しなければならぬのか。あなたの子をここに連れて来なさい。」

Luk 9:42 その子が来る途中でも、悪霊は彼を倒して引きつけを起こさせた。しかし、イエスは汚れた霊を叱り、その子を癒やして父親に渡された。

- (1) イエスが語ったことばは、申 32 : 20 を想起させる。
 - ①神は、荒野を旅するイスラエルの民の不信仰を叱責された。
 - ②申 32 : 20

Deu 32:20 主は言われた。／「わたしの顔を彼らから隠し、／彼らの終わりがどうなるかを見よう。／彼らは、ねじれた世代、／真実のない子らであるから。」

- (2) イエスは、人々の信仰の欠如を嘆かれた。
 - ①ルカは、イエスと父親の対話を省略している。
 - ②マコ 9 : 23～24

Mar 9:23 イエスは言われた。「できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」

Mar 9:24 するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

- ③ルカは、イエスの力と権威に焦点を合わせている。

(3) イエスは汚れた霊を叱り、その子を癒やして父親に渡された。

- ①イエスは、ことばを発するだけで悪霊を追い出された。
- ②イエスは、その子を父親に渡された。

③ルカは、イエスのあわれみを強調している。

4. 43 節 a

Luk 9:43a 人々はみな、神の偉大さに驚嘆した。

(1) この箇所の結論として、群衆の反応が取り上げられる。

①人々はみな、神の偉大さに驚嘆した。

②彼らは、イエスは神だという結論を出すべきであった。

③しかし彼らは、最終的にはイエスを拒否する。

④群衆の反応は、次のテーマである受難の予告へとつながっていく。

II. 受難の予告 (43b～45 節)

1. 43b～44 節

Luk 9:43b イエスがなさったすべてのことに人々がみな驚いていると、イエスは弟子たちにこう言われた。

Luk 9:44 「あなたがたは、これらのことばを自分の耳に入れておきなさい。人の子は、人々の手に渡されようとしています。」

(1) 悪霊に対する権威を持つイエスと、人々の手に渡される人の子の対比がある。

①イエスは、十字架への道を歩み始めておられた。

②イエスは、父なる神から与えられた運命を受けとめておられた。

③ルカ 9 : 35

Luk 9:35 すると雲の中から言う声がした。「これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。」

④しかし弟子たちは、イエスの言うことに耳を傾けなかった。

(2) 群衆は感銘を受けたが、イエスは、この状態は長続きしないことを知っていた。

①イエスは、弟子たちの注意を喚起した。

②「これらのことばを自分の耳に入れておきなさい」

③「人の子は、人々の手に渡されようとしています」

④これは、2 度目の受難の予告である。

2. 45 節

Luk 9:45 しかし、弟子たちには、このことばが理解できなかった。彼らには分からないように、彼らから隠されていたのであった。彼らは、このことばについてイエスに尋ねるのを恐れていた。

(1) 弟子たちには、このことばが理解できなかった。

- ①当時のユダヤ人たちが抱いていたメシア像の影響を受けていた。
 - *メシアは、栄光の王として地上に来られる。
 - *メシアが死ねば、神の計画は失敗に終わる。
 - ②群衆の支持を受けているのだから、拒否されることはないという思い込み。
 - ③イエスのことばを聞いていたが、その意味を理解することができなかった。
- (2)「彼らには分からないように、彼らから隠されていたのであった」
- ①イエスのことばを理解できなかった理由は、不信仰と思い込みである。
 - ②弟子たちがこの預言の意味を理解するのは、復活以降のことである。
 - ③神の計画は、弟子たちの無理解にもかかわらず前進していく。
- (3)「彼らは、このことばについてイエスに尋ねるのを恐れていた」
- ①彼らは、極めて人間的な理由で、イエスに質問するのを恐れた。
 - ②聞きたくないことを聞かされるのを恐れた。
 - ③彼らは、イエスが間もなく死ぬかもしれないということを恐れた。

結論：弟子訓練の内容

1. 信仰の欠如（37～43 節 a）

- (1) 弟子たちは、少年から悪霊を追い出せなかった。
- (2) イエスは、「ああ、不信仰な曲がった時代だ」と言われた。

2. 学ぶ力の欠如（43b～45 節）

- (1) 不信仰と思い込みが、弟子たちの理解力の妨げとなっていた。
- (2) イエスの公生涯には、2つの秘密があった。

①メシア的秘密

- *イエスは神が人となられたメシアである。
- *民衆の表面的な信仰を避けるために、このことが秘密にされた。
- *この真理は、徐々に明らかにされていく。
- *勝利の入城の際に、この真理が全面的に啓示される。

②メシア受難の秘密

- *弟子たちにのみ、メシア受難の予告が徐々に与えられた。
- *復活によって、その予告の意味が明らかにされる。

3. 謙遜の欠如（46～48 節）

- (1) 弟子たちは、誰が一番偉いかという議論を始める。

4. 寛容の欠如（49～50 節）

- (1) ヨハネは、外部の人間を排除し始める。

ルカの福音書 47 回
弟子たちのプライド
ルカ 9 : 46～50

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4 : 14～9 : 50）
- ②ルカ 9 : 1～50 は、そのクライマックスである。
- ③エルサレムへの旅（ルカ 9 : 51～19 : 10）へのブリッジである。
- ④ルカ 9 : 1～50 の中心テーマは、弟子訓練である。
*教会時代への準備が始まる。

(2) ルカ 9 : 1～50 の内容

- ①12 人の派遣（1～6 節）
- ②挿入句的エピソード（ヘロデの心理状態）（7～9 節）
- ③12 人の帰還（10～17 節）
- ④ペテロの信仰告白（18～27 節）
- ⑤イエスの変貌（28～36 節）
- ⑥悪霊につかれた少年の癒し（37～43 節 a）
- ⑦受難の予告（43b～45 節）
*群衆は驚嘆したが、最終的には、彼らはイエスを拒否する。
*それがイエスの十字架の死につながる。
*弟子たちにはそれが理解できなかった。
- ⑧弟子たちのプライド（46～48 節）
- ⑨弟子たちの不寛容（49～50 節）

2. アウトライン

- (1) 弟子たちのプライド（46～48 節）
- (2) 弟子たちの不寛容（49～50 節）

3. 結論

- (1) イエスの謙遜と弟子たちのプライド
- (2) 他の弟子たちに対する態度

弟子たちが抱えていた問題について学ぶ。

I. 弟子たちのプライド (46～48 節)

1. 46 節

Luk 9:46 さて、弟子たちの間で、だれが一番偉いかという議論が持ち上がった。

- (1) イエスは、受難のしもべとしての役割について弟子たちに教えた。
 - ①彼らには、その意味が理解できなかった。
 - ②もし理解できていれば、弟子にとってそれが何を意味するか分かったはず。

- (2) 彼らは、「だれが一番偉いか」という議論を始めた。

- ①彼らは、イエスが地上の王国の王であると考えていた。
- ②そこで、神の国での序列が気になった。
- ③弟子たちの間で、誰が最高位に着くかを議論した。

＊イエスの変貌を目撃したのは、ペテロ、ヨハネ、ヤコブの3人である。

- (3) 主イエスのしもべが最も陥りやすい罪は、自らの栄誉を求めることである。

- ①弟子たちは、霊的に未成熟な状態にあった。
- ②神の国における偉大さとは何か、全く理解できていなかった。
- ③自分の栄光を求めて聖書を読んでも、神の御心は見えてこない。

2. 47～48 節

Luk 9:47 しかし、イエスは彼らの心にある考えを知り、一人の子どもの手を取って、自分のそばに立たせ、

Luk 9:48 彼らに言われた。「だれでも、このような子どもを、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。また、だれでもわたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。あなたがた皆の中で一番小さい者が、一番偉いのです。」

- (1) イエスは、子どもを用いて霊的教訓をたびたび語られた。

- ①マタ 10 : 42 の例

Mat 10:42 まことに、あなたがたに言います。わたしの弟子だからということで、この小さい者たちの一人に一杯の冷たい水でも飲ませる人は、決して報いを失うことはありません。」

＊「この小さい者たち」とは、苦難に遭うイエスの弟子たちである。

＊イエスの弟子たちに対する愛の行為は、必ず神から報いを受ける。

- ②ルカ 9 : 47～48 では、子どもを用いて弟子たちへの教訓が語られる。

＊「一人の子ども」とは、悪霊から解放された子どもの可能性がある。

＊マコ 9 : 36

Mar 9:36 それから、イエスは一人の子どもの手を取って、彼らの真ん中に立たせ、腕に抱いて彼らに言われた。

*イエスは、その子どもの手を取り、腕に抱かれた。

(2) マタ 18 : 4 の教え

Mat 18:4 ですから、だれでもこの子どものように自分を低くする人が、天の御国で一番偉いのです。

- ①イエスの弟子は、子どもような謙遜さを身に付けるべきである。
- ②ルカは、この部分は省いている。

(3) ルカが記した霊的教訓

- ①イエスの弟子は、取るに足りないような者のために奉仕をすべきである。
- ②取るに足りない者の代表が、子どもである。
- ③ユダヤやギリシア・ローマ社会では、子どもは最も軽視された存在であった。
- ④子どもの世話をするのは、その家の婦人か、しもべの一人であった。
- ⑤子どもを、イエスの名のゆえに受け入れる人は、イエスを受け入れる人である。
 - *受け入れるとは、敬意を表すること（リスペクトすること）である。
 - *客として迎え入れることである。
 - *通常は、社会的地位が同格の者か、上位の者を客として招く。
 - *イエスは、社会的階層のピラミッドを逆転された。
 - *お返しができない人に奉仕をすることが、偉大さの指標である。
- ⑥子どもを受け入れる人は、イエスを受け入れる人である。
- ⑦イエスを受け入れる人は、イエスを遣わした父なる神を受け入れる人である。
- ⑧一番小さい者が、一番偉い。

(4) イエスの教えの結論

- ①自分のために地位を求めるよりも、地位のない人たちに仕えるべきである。
- ②貧しい人に仕える者は、イエスと父なる神に仕えているのである。
- ③そういう人こそ、神の国で偉大な者とされる。

II. 弟子たちの不寛容（49～50 節）

1. 49 節

Luk 9:49 さて、ヨハネが言った。「先生。あなたの名によって悪霊を追い出している人を見たので、やめさせようと思いました。その人が私たちについて来なかったからです。」

(1) ヨハネの問題は、妬みと不寛容である。

- ①イエスの名によって悪霊を追い出している人を見たので、やめさせようした。
- ②理由は、「その人が私たちについて来なかったからです」。

- ③弟子たちは、悪霊につかれた子どもを癒すことができなかった。
- ④悪霊を追い出している人を見て、妬みの感情を持った。
- ⑤この問題は、教理の正統性に関するものではない。
- ⑥仲間意識、縄張り意識が、ここでの問題である。

(2) 12 弟子は、イエスの他の弟子たちに対抗心を抱いた。

- ①この人は、イエスの弟子集団の一番外側にいた人であろう。
- ②12 弟子は、彼を排除したいと思った。
- ③しかしイエスは、彼を弟子集団の中に含めたいと思った。
- ④12 弟子は、既得権益を守るために境界線を引いた。

2. 50 節

Luk 9:50 しかし、イエスは彼に言われた。「やめさせてはいけません。あなたがたに反対しない人は、あなたがたの味方です。」

(1) イエスは、格言的な教えを口にされた。

- ①マタ 12:30 は、これとは逆の真理を教えていた。

Mat 12:30 わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしとともに集めない者は散らしているのです。

- ②ルカ 9:50 は、反対しない人は味方であることを教えている。

結論

1. イエスの謙遜と弟子たちのプライド

(1) イエスは、父なる神に従順に歩むという意志を表明された。

- ①十字架への道は、イエスの謙遜な姿勢を示している。
- ②イエスは、死に至るまで忠実に父なる神に従われた。

(2) 弟子たちは、神の国での地位を求めた。

- ①弟子たちは、自分を大いなる者にしようとした。
- ②これは、すべての信者が体験する誘惑である。

(3) ピリ 2:6~9

Php 2:6 キリストは、神の御姿であられるのに、／神としてのあり方を捨てられないとは考えず、

Php 2:7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、／人間と同じようになられました。／人としての姿をもって現れ、

Php 2:8 自らを低くして、死にまで、／それも十字架の死にまで従われました。

Php 2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、／すべての名にまさる名を与えられました。

2. 他の弟子たちに対する態度

(1) 自分たちと交流のない他の信者を排除してはならない。

- ①彼らもまた、信仰によって救われた神の家族である。
- ②他の信者が祝福を受けていても、それを妬んではならない。
- ③その人とともに喜ぶべきである。

(2) 仲間内で、一番になることを競い合ってはならない。

- ①神の国での価値観は、この世の価値観とは異なる。

(3) 霊的成長とは何か。

- ①自分は無力であることを悟り、神にのみ信頼する。
- ②自分よりも他の人のほうが偉いと認める。
- ③自分たちこそ一番だと言い始めるのは、墮落が始まっている証拠である。

ルカの福音書 48 回
エルサレムへの旅の始まり
ルカ 9 : 51～56

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4 : 14～9 : 50）

②ルカ 9 : 1～50 は、そのクライマックスである。

③ルカ 9 : 1～50 の中心テーマは、弟子訓練である。

＊教会時代への準備が始まる。

④ルカ 9 : 51 からエルサレムへの旅が始まる（ルカ 9 : 51～19 : 27）。

＊ルカは、エルサレム途上におけるイエスの奉仕を記録している。

＊この部分は、ルカ独特のものである。

＊一部、他の福音書と重複している箇所がある（マタ 19～20、マコ 10）。

(2) エルサレム途上におけるイエスの奉仕

①ルカは、旅の行程や地理的情報に関しては、さほど興味を持っていない。

②ルカの興味は、エルサレムにある。

＊フルクテンバウム師は、ルカはユダヤ人だと考えている。

③イエスは、種々の機会を用いて弟子たちへの教えをくり返す。

＊イエスの教えをくり返し強調するのは、ルカの視点である。

2. アウトライン

(1) エルサレムへの旅の始まり（51 節）

(2) サマリア人の反応（52～53 節）

(3) ヤコブとヨハネの反応（54～56 節）

3. 結論

(1) 聖霊降臨前のヨハネと降臨後のヨハネの対比

(2) イエスの旅とパウロの旅の対比

ヤコブとヨハネに対するイエスの教えについて学ぶ。

I. エルサレムへの旅の始まり（51 節）

1. 51 節

Luk 9:51 さて、天に上げられる日が近づいて来たころのことであった。イエスは御顔をエル

サレムに向け、毅然として進んで行かれた。

(1) この旅は、勝利の入城まで続く。

①イエスは、十字架に向かって毅然として進んで行かれる。

＊イエスの毅然とした態度は、私たちにとっても教訓となる。

②ルカは、受難の先にある復活と昇天まで見通している。

③使徒の働きは、イエスの昇天で始まり、弟子たちの宣教活動を描いている。

(2) 旅の行程に関して、9 つの聖書箇所を紹介する。

①9 : 52 では、サマリア人の村に入る。

②10 : 38 では、ある村にいる（ベタニア）。

Luk 10:38 さて、一行が進んで行くうちに、イエスはある村に入られた。すると、マルタという女の人がイエスを家に迎え入れた。

③13 : 22 では、エルサレムへの旅が続く。

Luk 13:22 イエスは町や村を通りながら教え、エルサレムへの旅を続けておられた。

④13 : 32～33 では、預言者はエルサレム以外で死ぬことはないと言われた。

Luk 13:32 イエスは彼らに言われた。「行って、あの狐にこう言いなさい。『見なさい。わたしは今日と明日、悪霊どもを追い出し、癒やしを行い、三日目に働きを完了する。』」

Luk 13:33 しかし、わたしは今日も明日も、その次の日も進んで行かなければならない。預言者がエルサレム以外のところで死ぬことはあり得ないのだ。』

⑤17 : 11 では、サマリアとガリラヤの境を通られた。

Luk 17:11 さて、イエスはエルサレムに向かう途中、サマリアとガリラヤの境を通られた。

⑥18 : 31 では、エルサレムに上って行くと言われた。

Luk 18:31 さて、イエスは十二人をそばに呼んで、彼らに話された。「ご覧なさい。わたしたちはエルサレムに上って行きます。人の子について、預言者たちを通して書き記されているすべてのことが実現するのです。』

⑦18 : 35 では、エリコに近づかれた。

Luk 18:35 イエスがエリコに近づいたとき、一人の目の見えない人が道端に座り、物乞いをしていた。

⑧19 : 1 では、エリコに入られた。

Luk 19:1 それからイエスはエリコに入り、町の中を通っておられた。

⑨19 : 28～29 では、ベテパゲとベタニアに近づかれた。

Luk 19:28 これらのことを話してから、イエスはさらに進んで、エルサレムへと上って行かれた。

Luk 19:29 オリーブという山のふもとのベテパゲとベタニアに近づいたとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。

(3) ルカの執筆意図

- ①イエスは、公生涯の間にエルサレムを 3 度訪問された。
- ②イエスのエルサレム訪問を詳細に記録しているのは、ヨハネの福音書である。
- ③ルカは、3 度のエルサレム訪問を 1 度にまとめている。
- ④ルカの記録では、この旅は、受難に向かう最後のエルサレムへの旅である。
- ⑤その道中で、イエスは弟子たちにさまざまな教えを語った。

(4) イエスの教えの新しい展開

- ①イエスは、群衆への教えを離れ、弟子訓練に集中された。
- ②イエスは、弟子たちの奉仕に深い関心を示された。
- ③裕福な者、自己満足をしている者、パリサイ人たちなどへの警告が語られる。
- ④ルカには 37 のたとえ話があるが、その内の 23 がこのセクションに出てくる。
- ⑤弟子たちに教え、群衆には真理を隠すためである。

＊弟子とそうでない者の区別が、より鮮明になる。

＊十字架の時が近づいているからである。

II. サマリア人の反応 (52～53 節)

2. 52 節

Luk 9:52 そして、ご自分の前に使いを送り出された。彼らは行ってサマリア人の村に入り、イエスのために備えをした。

- (1) イエスは、ご自分の前に使い（複数）を送り出された。
 - ①イエスと 12 使徒たちのために宿舎と食事を用意するためである。
 - ②彼らは、宣教のために送り出されたのではない。
 - ③イエスの到来の準備をするという点で、バプテスマのヨハネの奉仕に似ている。
- (2) ガリラヤからエルサレムまでは、最短で 3 日の距離であった。
 - ①ヨルダン川東岸のルートとサマリアを通過するルートがあった。
 - ②後者が最短ルートであるが、サマリア人の妨害という問題があった。
- (3) ユダヤ人とサマリア人の関係
 - ①サマリア人は、アッシリア捕囚の時代に出現した混血の民である。
 - ＊前 722 年に北王国が滅びた。
 - ＊サマリアに残った下層階級のユダヤ人と入植してきた異邦人が結婚した。
 - ②ユダヤ人たちは、サマリア人は半分異教徒であると考えていた。

③サマリア人たちは、ユダヤ人の聖書を拒否した。

＊モーセの五書だけは認めた。

④イエス時代においても、ユダヤ人とサマリア人は敵対していた。

＊ヨハ 4：9

Joh 4:9 そのサマリアの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのである。

3. 53 節

Luk 9:53 しかし、イエスが御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリア人はイエスを受け入れなかった。

(1) 使いの者たちはサマリア人と交渉したが、拒否された。

①エルサレムから下って来る場合は、サマリア人はユダヤ人の通過を許した。

②エルサレムに上って行く場合は、サマリア人はユダヤ人の通過を妨害した。

＊エルサレムで礼拝することに反発していたからである。

③サマリア人は、ゲリジム山こそ礼拝の場であると信じていた。

＊ヨハ 4：20

Joh 4:20 私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」

(2) サマリア人たちがイエスを拒否した理由

①イエスがメシア性を主張したから拒否したのではない。

②単に、イエスがユダヤ人だから受け入れることを拒否したのである。

③彼らは、救い主をもてなすという特権を放棄した。

Ⅲ. ヤコブとヨハネの反応 (54～56 節)

1. 54 節

Luk 9:54 弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私たちが天から火を下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」

(1) ヤコブとヨハネの態度は、極めて敵対的である。

①彼らの頭の中には、エリヤの奉仕の事例があったのだろう。

②2 列 1：9～10

2Ki 1:9 そこでアハズヤは、五十人隊の長を、その部下五十人とともにエリヤのところに遣わした。隊長がエリヤのところへ上って行くと、そのとき、エリヤは山の頂に座っていた。隊長はエリヤに言った。「神の人よ、王のお告げです。下りて来てください。」

2Ki 1:10 エリヤはその五十人隊の長に答えて言った。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。

②同じことが2度あり、3度目の50人隊の長は謙遜な態度を取った。

(2) イエスの弟子たちは、イエスの奉仕とエリヤの奉仕は似ていると感じていた。

①ルカ 9:19

Luk 9:19 彼らは答えた。「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだと言う人たち、昔の預言者の一人が生き返ったのだと言う人たちもいます。」

②彼らは、自分たちでエリヤの役割を演じようとした。

③彼らは、イエスの意向を尋ねようとはしなかった。

2. 55～56 節

Luk 9:55 しかし、イエスは振り向いて二人を叱られた。

Luk 9:56 そして一行は別の村に行った。

(1) イエスは、ヤコブとヨハネの態度に不快感を示された。

①イエスは振り向いて2人を叱られた。

(2) 「叱った」は、ギリシア語で「エペティメセン」である。

①ルカ 4:35

Luk 4:35 イエスは彼を叱って、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。すると悪霊は、その人を人々の真ん中に投げ倒し、何の害も与えることなくその人から出て行った。

②ルカ 4:41

Luk 4:41 また悪霊どもも、「あなたこそ神の子です」と叫びながら、多くの人から出て行った。イエスは悪霊どもを叱って、ものを言うのをお許しにならなかった。イエスがキリストであることを、彼らが知っていたからである。

③ルカ 8:24

Luk 8:24 そこで弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、私たちは死んでしまいます」と言った。イエスは起き上がり、風と荒波を叱りつけられた。すると静まり、風になった。

(3) この段階では、イエスの奉仕は裁きをもたらすことではない。

①再臨のメシアは、罪人を裁かれる。

②私たちの使命もまた裁くことではなく、福音を伝えることである。

(4) 一行は、別のサマリア人の村に行き、そこで宿舎を見つけた。

(5) イエスと弟子たちの対比

- ①イエスは、拒否されても復讐しなかった。
- ②これが、十字架に向かう姿勢の反映である。
- ③弟子たちは、サマリア人に反発した。
- ④これは、人種的偏見の反映である。

結論

1. 聖霊降臨前のヨハネと降臨後のヨハネの対比

(1) これは、ルカの福音書と使徒の働きとの対比でもある。

- ①この出来事から 1、2 年して、ペテロとヨハネは、サマリアを訪問した。
- ②使 8 : 25

Act 8:25 こうして、使徒たちは証しをし、主のことばを語った後、エルサレムに戻って行った。彼らはサマリア人の多くの村で福音を宣べ伝えた。

- ③ヨハネが火で焼き滅ぼすことを提案した村が含まれている可能性は大である。
- ④野蛮な発言をしたヨハネは、大いに変えられた。

(2) 聖霊の力によって、人は変えられる。

- ①2 コリ 5 : 17

2Co 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

2. イエスの旅とパウロの旅の対比

(1) これもまた、ルカの福音書と使徒の働きとの対比である。

- ①イエスの旅は、エルサレムがゴールである。
 - *それは、受難に向けた旅である。
- ②パウロの旅は、ローマがゴールである。
 - *それは、囚人としての旅である。

ルカの福音書 49 回

弟子となるための犠牲

ルカ 9 : 57～62

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4 : 14～9 : 50）

②ルカ 9 : 51 からエルサレムへの旅が始まった（ルカ 9 : 51～19 : 27）。

*ルカは、エルサレム途上におけるイエスの奉仕を記録している。

*この部分は、ルカ独特のものである。

*一部、他の福音書と重複している箇所がある（マタ 19～20、マコ 10）。

③ルカは、旅の行程や地理的情報に関しては、さほど興味を持っていない。

④イエスは、種々の機会を用いて弟子たちへの教えをくり返す。

*イエスの教えをくり返し強調するのは、ルカの視点である。

(2) 直近の文脈

①サマリア人たちは、イエスを拒否した。

②ルカは、イエスを拒否した人たちから、3 人の志願者に視点を移す。

③1 番目と 2 番目の志願者の出来事は、ガリラヤで起こった（マタ 8 : 18）。

④3 番目の志願者の場合も同じであろう（これはルカだけの情報）。

⑤ルカは、弟子訓練というテーマのもとに、3 人 1 組で紹介している。

(3) 予備知識

①人は、信仰と恵みによって救われる。

*神の愛は、無条件の愛である。

*神はなんでも受容してくださるということではない。

*私たちは、アダム以来、罪を宿して生まれてくるようになった。

*しかし、イエス・キリストを信じるなら、どんな罪人でも救われる。

②「福音の三要素」

*キリストは私たちの罪のために死なれた。

*キリストは死んで墓に葬られた。

*キリストは三日目に復活された。

③救いは、神からの贈り物である。

*イエス・キリストを信じる以外に救いの方法はない。

*救いは、恵みと信仰によって与えられる。

④救われることと、イエスの弟子になることは違う。

＊弟子になることには、大きな犠牲が伴う。

＊この箇所は、そういう前提で読む必要がある。

2. アウトライン

(1) 1 番目の志願者 (57～58 節)

(2) 2 番目の志願者 (59～60 節)

(3) 3 番目の志願者 (61～62 節)

3. 結論

(1) 1 番目の志願者の問題点

(2) 2 番目の志願者の問題点

(3) 3 番目の志願者の問題点

(4) まとめ

弟子となるための犠牲について学ぶ。

I. 1 番目の志願者 (57～58 節)

1. 57 節

Luk 9:57 彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。」

(1) 最初の人イエスに近づいてきて、こう言った。

①「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます」

②マタ 8:19 によれば、彼は律法学者である。

③ルカは、読者への適用を考えて、一般化して書いている。

④この人は、真実にそう考えて、ことばを発している。

⑤「follow」（ついて行く、従う）が 3 度出てくる（57、59、61 節）。

⑥ユダヤ的文脈では、これは弟子になることを意味する。

2. 58 節

Luk 9:58 イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕するところありません。」

(1) イエスは、彼を叱責していない。

①弟子となることの犠牲について考えるように教えた。

(2) 師であるイエスは、種々の欠乏を甘受される。

- ①「人の子」というタイトルは、栄光のメシアを表現している。
- ②そのお方が、貧しい姿になっておられる。ここには、大いなる皮肉がある。
- ③イエスよりも、狐や空の鳥のほうが自然界で恵まれた生活をしている。
- ④イエスの犠牲
 - *住む家がない
 - *不自由な生活
 - *種々の欠乏
 - *人々から受ける拒否

(3) 弟子たちは、師であるイエスの後に従う。

- ①イエスの弟子たちは、サマリアの村を通過するときに、拒否される体験をした。
- ②すべての志願者は、弟子となることの犠牲を冷静に計算する必要がある。

II. 2 番目の志願者 (59～60 節)

1. 59 節

Luk 9:59 イエスは別の人に、「わたしに従って来なさい」と言われた。しかし、その人は言った。「まず行って、父を葬ることをお許してください。」

(1) 1 番目の人は自ら申し出たが、2 番目の人はイエスに招かれた。

- ①「わたしに従って来なさい」とは、弟子になりなさいという招きである。
- ②ルカ 5:27 (レビの招き)

Luk 5:27 その後、イエスは出て行き、収税所に座っているレビという取税人に目を留められた。そして「わたしについて来なさい」と言われた。

(2) その人は、「まず行って、父を葬ることをお許してください」と応じた。

- ①この人の父親は、死んでいるのか、生きているのか。
- ②当時のことば使いから判断すると、恐らく生きていたと思われる。
 - *当時は、死ぬとその日のうちに遺体を埋葬した。
- ③ユダヤ人たちは、丁寧な埋葬を最も重要なことと認識していた。
 - *律法の学びよりも優先させる。
 - *神殿での奉仕よりも優先させる。
 - *過越の子羊を屠ることよりも優先させる。
 - *割礼の儀式よりも優先させる。
- ④彼は、子どもとしての義務を優先させ、弟子になることを先延ばしにした。
- ⑤彼は、イエスがこの判断に同意してくれることを期待した。

(3) エリヤとエリシャの先例がある。

①1 列 19 : 19～21

1Ki 19:19 エリヤはそこを去って、シャファテの子エリシャを見つけた。エリシャは、十二くびきの牛を先に立て、その十二番目のくびきのそばで耕していた。エリヤが彼のところを通り過ぎるとき自分の外套を彼に掛けたので、

1Ki 19:20 エリシャは牛を放って、エリヤの後を追いかけて言った。「私の父と母に口づけさせてください。それから、あなたに従って行きますから。」エリヤは彼に言った。「行って来なさい。私があなたに何をしたか。」

1Ki 19:21 エリシャは引き返して、十二くびきの牛を取り、それを殺して、牛の用具でその肉を調理し、人々に与えてそれを食べさせた。それから彼は立ってエリヤについて行き、彼に仕えた。

2. 60 節

Luk 9:60 イエスは彼に言われた。「死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」

(1) イエスは、その人の申し出を拒否した。

①エリヤの場合とは、状況が異なる。

②イエスの奉仕は、エリヤの奉仕よりも重要である。

③イエスの奉仕は、エリヤの奉仕よりも緊急性を帯びている。

(2) 「死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい」

①「死人たち」とは、霊的に死んだ人たち、つまり、未信者のことである。

(3) 「あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい」

①弟子としての奉仕は、伝統的な親に対する責務よりも重要である。

②イエスに従うことと、親への奉仕は、調和する場合が多い。

③もし対立する場合は、イエスに従うことを優先させる。

④イエスは、緊急性をもってこの命令を与えておられる。

⑤今の時代においても、同じような緊急性の認識が必要である。

Ⅲ. 3 番目の志願者 (61～62 節)

1. 61 節

Luk 9:61 また、別の人が言った。「主よ、あなたに従います。ただ、まず自分の家の者たちに、別れを告げることをお許してください。」

(1) 3 番目の人は、家族に別れのあいさつをすることを願い出た。

①2 番目の人の願いより、はるかに小さな願いである。

②別れを告げるだけなら、短時間で終わる。

③背景には、エリヤとエリシャの物語がある。

(2) イエスは、この願いも拒否された。

①イエスの奉仕は、エリヤの奉仕よりも重要である。

2. 62 節

Luk 9:62 **すると、イエスは彼に言われた。「鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。」**

(1) イエスは、格言的答えを語られた。

①ルカ 9 : 50

Luk 9:50 **しかし、イエスは彼に言われた。「やめさせてはいけません。あなたがたに反対しない人は、あなたがたの味方です。」**

(2) 「鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません」

①弟子の奉仕は、鋤で畑に畝を作るのに似ている。

②前方をしっかりと見ていないと、曲がった畝ができる。

③イエスに従うことを第一優先にしない弟子は、神の国にふさわしくない。

④「神の国にふさわしくありません」。神の国に入れないということではない。

⑤神の国に入った後の奉仕のことである。

結論

1. 1 番目の志願者の問題点（物質的快適さ）

(1) 彼は、自信家で、衝動的に行動する若者である。

(2) 彼は、弟子が払う犠牲について深く考えたことがない。

(3) 彼は、自分が何を言っているか分かっていない。

(4) イエスに従うことは、繁栄の道ではなく、十字架の道を歩むことである。

(ILL) 9 月 6 日（火） 「3 分でわかる聖書」 316 回 「裕福になるための祈り」

2. 2 番目の志願者の問題点（仕事や義務）

(1) 彼は、イエスに従おうと決めている。

(2) その前に、生きている父親の面倒を見ようとしている。

(3) 「〇〇が終わったら、イエスの弟子になろう」と考えるのは、人の常である。

- (4) 霊的に死んでいる人は、肉体的に死んでいる人を葬ることができる。
- (5) しかし、霊的に死んでいる人は、福音を宣べ伝えることができない。
- (4) 神への愛と人間への愛は、多くの場合合致する。
- (5) もし選択を迫られたなら、神への愛を優先させる。

3. 3 番目の志願者の問題点（家族愛や友情）

- (1) 彼は、心が定まっていない人である。
- (2) 彼は、イエスの奉仕の重要性と緊急性を理解していない。
- (3) イエスは、すでにエルサレムに顔を向けて進んでおられた。
- (4) 「神の国にふさわしくありません」は、神の国に入れないということではない。
- (5) 神の国に入った後の奉仕のことである。

4. まとめ

- (1) ルカは、3 人がどのように応答したかに関しては、何も書いていない。
 - ①彼らは良き選びをしたと思いたい。
- (2) ルカは、読者一人ひとりに決断を迫っている。
- (3) ピリ 3 : 13~14

Php 3:13 兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、

Php 3:14 キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるという、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

ルカの福音書 50 回

70 人の派遣

ルカ 10：1～12

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4：14～9：50）

②ルカ 9：51 からエルサレムへの旅が始まった（ルカ 9：51～19：27）。

＊ルカは、エルサレム途上におけるイエスの奉仕を記録している。

＊ルカは、旅の行程や地理的情報に関しては、さほど興味を持っていない。

＊ルカは、弟子たちに語られたイエスの教えを記録している。

(2) 直近の文脈

①サマリア人たちは、イエスを拒否した。

②ルカは、イエスを拒否した人たちから、3 人の志願者に視点を移す。

③次に、3 人の志願者との対比で、70 人の弟子たちの派遣が語られる。

④最初のミッションは、12 使徒の派遣であった（9：1～6、10）。

⑤2 番目のミッションは、70 人の派遣である（ルカだけの情報）。

⑥ルカの意図は、宣教の広がりを書き記すことにある（使徒の働きにつながる）。

⑦ルカの強調点は、70 人の宣教活動そのものではなく、イエスの教えである。

2. アウトライン

(1) 70 人の派遣（1 節）

(2) 派遣に際してのメッセージ（2～11 節）

(3) 裁きのことば（12 節）

3. 結論：イエスの教えの普遍的適用

70 人に与えたイエスの教えについて学ぶ。

I. 70 人の派遣（1 節）

1. 1 節

Luk 10:1 その後、主は別に七十二人を指名して、ご自分が行くつもりのすべての町や場所に、先に二人ずつ遣わされた。

(1) 主語は、「主」（キュリオス）である。

①ルカは、イエスの権威を強調している、

②イエスは、その權威に基づいて 70 人を派遣する。

(2) 派遣されるのは、70 人か 72 人か。

①70 人（新改訳第 3 版、文語訳、NASB、AV、RVS）

②72 人（新改訳 2017、新共同訳、口語訳、NIV、NEB、JB）

③写本上の証拠は、五分五分である。

④どちらを採用しても、大きな意味の違いはない。

⑤イエスが世界宣教を予見していたとするなら、70 人が正解であろう。

＊創世記 10 章に、ノアから派生した 70 の国々が記録されている。

(3) このミッションは、最初のミッションよりも規模が大きい。

①イエスは、自分が行くつもりすべての町や場所に、彼らを派遣した。

＊ガリラヤからエルサレムに向かう途中の町々である。

②2 人ひと組にして派遣した。

＊安全が守られる。ユダヤ的視点からは、証言の信憑性が高まる。

③彼らの役割は、バプテスマのヨハネのそれと似ている。

＊宿と食事の用意をすることが主要な任務ではない。

＊メシアが来られる前に、人々の心を整えることが彼らの任務である。

II. 派遣に際してのメッセージ (2～11 節)

1. 2 節

Luk 10:2 そして彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主にご自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。

(1) イエスの最初の命令は、「祈りなさい」であった。

①働き手を送ってくださいという祈りである。

②祈る人自身が、働き手になる必要がある。

(2) 収穫のイメージが用いられている。

①収穫とは、不信者の群れの中から、イエスを信じる者を集めることである。

②収穫は多いが、働き手が少ない。

③収穫のための働き手が必要である。

④イエスは、できるだけ多くの人々が収穫の働きに参加することを願われた。

⑤この状況は、十字架以前のものである。

＊緊急性と豊かな収穫

⑥今の時代は、種蒔きの重要性を見過ごしてはならない。

2. 3 節

Luk 10:3 さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に子羊を送り出すようなものです。

(1) イエスは、良き羊飼いとて 70 人の羊たちを派遣する。

①「さあ、行きなさい」。宣教への参加を促す命令である。

②70 人の羊たちは、危険な環境の中に投げ込まれる。

＊狼の中に子羊を送り出すようなもの

③それゆえ、神にのみ信頼する必要がある。

④彼らは、イエスの代理人として派遣された（アポステロウという動詞）。

3. 4 節

Luk 10:4 財布も袋も持たず、履き物もはかずに行きなさい。道でだれにもあいさつしてはいけません。

(1) 短期間のミッションなので、身軽に旅をする必要がある。

①イエスは、十分な用意をせよとは言われなかった。

②財布も袋も持たないのは、信者の援助と神の助けに依存するためである。

③イエス自身が、父なる神に依存しておられた。

④履き物の代えも持たない。

(2)「道でだれにもあいさつしてはいけません」

①イエスは、社交的であることを禁じたわけではない。

②古代中近東では、あいさつが長々と続くことがあった。

③時間の浪費は、本来のミッションの妨げとなる。

4. 5～6 節

Luk 10:5 どの家に入っても、まず、『この家に平安があるように』と言いなさい。

Luk 10:6 そこに平安の子がいたら、あなたがたの平安は、その人の上にとどまります。いなければ、その平安はあなたがたに返って来ます。

(1) 弟子たちは、家に入るとき、祝福のことばを語るように命じられた。

①「この家に平安があるように」

＊平安は、シャロームである。

②そこが弟子たちを歓迎してくれる家なら、その平安はそこにとどまる。

＊その家には、平安の子（信者）がいる。

③歓迎してくれない家なら、その平安は弟子たちに返ってくる。

*その家には、平安の子（信者）がいない。

5. 7～8 節

Luk 10:7 その家にとどまり、出される物を食べたり飲んだりしなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。

Luk 10:8 どの町に入っても、人々があなたがたを受け入れてくれたら、出された物を食べなさい。

(1) ひとつの家にとどまったなら、家から家へと渡り歩いてはいけない。

- ①時間の浪費になる。
- ②その家の主人を侮辱することになる。
- ③町中の人たちが、訪問者が来たことを知っている。

(2) 彼らは、出される物を食べたり飲んだりすべきである。

- ①気に入らないものがあっても、食物が与えられることに満足すべきである。
- ②主の働き人が、物質的な報酬に与るのは、当然のことである。

(3) 出された物が、不浄食物である可能性もある。

- ①不浄食物であっても、食べてよい。
- ②マコ 7 : 18～19

Mar 7:18 イエスは彼らに言われた。「あなたがたまで、そんなにも物分かりが悪いのですか。分からないのですか。外から人に入ってくるどんなものも、人を汚すことはできません。

Mar 7:19 それは人の心には入らず、腹に入り排泄されます。」こうしてイエスは、すべての食物をきよいとされた。

6. 9 節

Luk 10:9 そして、その町の病人を癒やし、彼らに『神の国があなたがたの近くに来ている』と言いなさい。

(1) 70 人は、イエスと 12 弟子が始めた奉仕を継続する。

- ①病人を癒す。メッセージを語る前に癒しを行う。
- ②メッセージは、「メシアが来られたので神の国は近づいた」というものである。

*時間的にも空間的にも、旧約聖書が預言していた神の国は近づいた、

- ③神の国は、まだ始まっていない。
- ④ユダヤ人たちがイエスを信じるまでは、神の国は始まらない。

7. 10～11 節

Luk 10:10 しかし、どの町であれ、人々があなたがたを受け入れないなら、大通りに出て言いなさい。

Luk 10:11 『私たちは、足に付いたこの町のちりさえ、おまえたちに払い落として行く。しかし、神の国が近づいたことは知っておきなさい。』

(1) 受け入れない町があるなら、公（大通りに出て）に2つのことを宣言する。

①不信仰を糾弾する象徴的な行為を行う。

*糾弾することばを語りながら、足のちりを落とす。

②「神の国が近づいたことは知っておきなさい」と宣言する。

*これは、裁きが下るという宣言である。

Ⅲ. 裁きのことば（12 節）

1. 12 節

Luk 10:12 あなたがたに言います。その日には、ソドムのほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。

(1) ソドムと不信仰な町々には共通点がある。

①神から警告を受けても、悔い改めなかった。

(2) ソドムの滅びは、格言になった。

①イザ 1：9～10（エルサレムの滅びの預言）

Isa 1:9 もしも、万軍の【主】が私たちに／生き残りの者をわずかでも残されなかったなら、／私たちもソドムのようになり、／ゴモラと同じになっていたであろう。

Isa 1:10 聞け。ソドムの首領たちよ、【主】のことばを。／耳を傾けよ。ゴモラの民よ、／私たちの神のみおしえに。

(3) ソドムと不信仰な町々の比較

①ソドムには、ロトという証人がいた。

②ソドムの人たちは、神からの使者（2人の天使）を受け入れなかった。

③不信仰な町々には、メシアの先駆者という証人が与えられた。

④不信仰な町々の住民たちは、イエスからの使者を拒否した、

⑤ソドムの罪よりも、不信仰な町々の罪のほうが重い。

⑥次回、コラジン、ベツサイダ、カペナウムを取り上げる。

結論：イエスの教えの普遍的適用

1. 2人1組で出て行く。

(1) これは、証しの信頼性に関係してくる。

(2) 2 コリ 13 : 1 (教会内の罪の問題を解決する)

2Co 13:1 私があなたがたのところに行くのは、これで三度目です。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことは立証されなければなりません。

2. 祈りを優先させる。

- (1) 仕事量に比較して、働き人が不足している。
- (2) 働き人が増やされるように祈る。
- (3) 祈ったならば、自ら働き人として出て行く。

3. イエスの弟子は、敵対的な環境に投げ込まれる。

- (1) イエスの弟子は、この世から迫害される。
- (2) ヨハ 16 : 33

Joh 16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」

4. 身軽に人生を生きる。

- (1) 2 コリ 6 : 10

2Co 6:10 悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持っていないようでも、すべてのものを持っています。

5. 時間を浪費しない。

- (1) 社交のために時間を浪費してはならない。
- (2) 最も重要なことのために、時間を用いる、

6. 伝道がうまくいかなくても落胆しない。

- (1) 人を救うのは主の御業である。
- (2) 相手に与えた祝福は、自分に戻ってくる。

7. 多く与えられた者には、多くのことが要求される。

- (1) 不信仰な町々は、ソドムよりも厳しい裁きに遭う。